

RAのイベント報告

学生会館のRA（レジデントアシスタント）として、留学生の皆さんと交流を深めるイベントを企画・運営しました。日本での生活がより楽しく、充実したものになるように、今後もさまざまな活動が続けていきます！

5/30
タコバ

学生会館のホールで「タコバ」を開催しました。みんなで材料を準備して、ワイワイとたこ焼きを作りながら、たくさんの国の文化や学生生活について話しました。初めての人同士もすぐに仲良くなり、笑顔があふれるとても楽しい時間になりました！



Point 食を通じて自然と会話が生まれ、国や言語を超えてつながることができました！今後もこうした交流の場を大切にしていきたいと思います。

6/28
鎌倉旅行

鎌倉へ日帰り旅行に行きました！大仏や鶴岡八幡宮を訪れたり、あじさいの名所を散策したりと、日本の歴史や自然を満喫しました。美しい景色の中でたくさん写真を撮り、素敵な思い出ができました！



Point 留学生たちが日本文化や歴史に触れ、理解を深める良い機会となりました。これからも一緒にさまざまな場所へ出かけ、楽しい思い出を作っていきます！

今後も、学生会館での生活がより豊かになるようなイベントを企画・運営していきます！
みなさんの参加をお待ちしています！

学生会館からのお知らせ

ホームページ＜<https://yish-yoke.com>＞

◆留学生による文化講座

～ネパール ヒマラヤの国～

- 日 時：2026年10月25日（日）13:30～15:00
- 会 場：国際学生会館3階ホール
- 参加費：一般500円中高生300円（ネパールの茶菓付き）
- 定 員：30人（定員になり次第締切り）
- 申込方法：前日までに学生会館ホームページからお申し込みください

◆留学生との交流会（日本語または簡単な英語で）

～留学生と話してみませんか？～

- 日 時：2026年11月14日（土）13:30～15:00
（日本語のみ）
- 2026年11月21日（土）13:30～15:00
（簡単な英語）

- 会 場：国際学生会館3階ホール
- 参加費：300円（茶菓付き）
- 定 員：各30人（定員になり次第締切り）
- 申込方法：前日までに学生会館ホームページからお申し込みください



交通案内 JR京浜東北線・京浜急行線「鶴見駅」より徒歩15分
JR鶴見駅東口より横浜市営バス15系統（4番乗り場）に
乗車5分、本町通3丁目にて下車、徒歩1分

開館時間 火曜日～土曜日 9:00～21:00
日曜日、月曜日、祝日 9:00～17:00
休館日 毎月第4月曜日、年末年始

横浜市国際学生会館ニュース

よこはま地球村

2026年 秋号
2026年9月1日発行 第129号

■発行：横浜市国際学生会館（YISH）
〒230-0048 横浜市鶴見区本町通4-171-23
Tel.045-507-0121 Fax.045-507-2441
Email: yish@yoke.or.jp
ホームページ: <https://yish-yoke.com>
■印刷／デザイン：ツルミ印刷株式会社

よこはま地球村

横浜市国際学生会館ニュース

学生会館のマスコット
ラブアースベア

2026
No.129



秋
autumn

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、公益財団法人 横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

留学生による文化講座

バングラデシュ 文化講座を開催しました

6月20日（土）に「留学生による文化講座～美しきバングラデシュ～」を開催しました。今回はバングラデシュからやってきた3人の留学生が交代で母国の多彩な魅力をそれぞれ語りました。また、司会進行もRA（学生会館に居住している日本人学生）が行い、学生会館らしい雰囲気を盛り上げました。

前半は、バングラデシュの豊かな自然、多様な民族、人気の観光地、伝統的な衣装、エキゾチックな食べ物、様々な動物、厳粛な宗教儀式、個性的なお祭り、生活感ある日常風景などを、サリムさん、セファトさん、カニズさんの3人がユーモアを交えて親しみある口調で語りました。

後半は、この3人を中心に来場者の方々を3つの少人数のグループに分けて、とても近い距離での交流となりました。ベンガル語の文字で自分の名前を書いてその出来ばえを批評してもらったり、個別に興味あることを質問したりして、親近感あふれる時間を過ごしました。

当日提供したバングラデシュ風クッキーやドライマンゴーといったおかしや、手作りのレモンジュース、トゥルシーティー（ノンカフェインのハーブティー）も大好評で、さらに伝統衣装のサリーの着付体験をしていただくなど、盛りだくさんで充実した文化講座となり、来場者の方々にも心から満足していただきました。



左からサリムさん、カニズさん、セファトさん

留学生たちが潮田神社例大祭に参加しました

6月7日①

横浜・鶴見の初夏の風物詩「潮田神社例大祭」に学生会館からも多くの留学生たちが参加しました。

留学生たちは、初めて着る法被（はっぴ）に戸惑いながら、神輿担ぎに参加したり、色々な屋台で初めて見る食べ物を楽しんだりしていました。



日本伝統のお神輿でワッショイ



屋台の食べ歩きも楽しい



商店街が人で埋まるほどの賑わいぶり

日本語と英語で「留学生との交流会」を開催しました

毎年恒例の「留学生との交流会」を今年も開催しました。今年度の前期は 5 月 23 日（土）に日本語での会、5 月 30 日（土）に英語での会を実施し、どちらも充実した交流会となりました。

日本語の会では落ち着いて和やかな雰囲気ですと話すことができ、内容の濃い交流をすることができました。



和やかな雰囲気の日本語での交流会

また、この日は地元のテレビ局が交流会の様子を取材しにやって来ました。

英語の会では、会場からあふれそうなほどの大勢の参加者が集まり、笑いが絶えない活気あふれる交流会となりました。多くの参加者が交流会終了後もまだまだ話したような様子で、とても充実した時間だったことが感じられました。



大賑わいで活気あふれる英語での交流会

留学生に聞いてみました

なんで"YOU"は日本へ？

皆さん、こんにちは。横浜市国際学生学生会館に住んでいる、関東学院大学国際文化学部比較文化学科 4 年生の顔世艾（ガンセガイ）と申します。来日してから月日が流れるのは非常に早く、日本での生活もすでに 5 年が経ちました。現在は大学院の進学試験に向けて準備をしており、日本生活における重要な節目を迎えています。

日本という国に興味を持ったのは、中学生の頃でした。偶然、学校の図書室で『徒然草』や『方丈記』、『銀河鉄道の夜』といった日本文学の翻訳書に出会ったのが始まりです。それ以来、日本の文学や文化に強く惹かれるようになりました。歴史の授業で、古来より日本と中国が深く交流し、互いの歴史や発展に大きな影響を与えてきたことを知り、日本への関心はますます高まりました。そして、高校卒業後、私は迷うことなく日本への留学を決意しました。

来日当初は日本語が全く話せない状態でした。「漢字があるからきっと習得しやすいはず」という期待は、学び始めた瞬間に打ち砕かれました。漢字の知識で意味を推測できても、複雑な日本語の文法には大きな壁を感じたからです。しかし、その苦労こそが、私に「言語間の違いを深く探究したい」という新たな情熱をくれました。今、日本という環境で、日本語にどっぷりと浸かりながら言語学を深掘りできることは、私にとって何にも代えがたい宝物です。

日本での学びは、学校の中だけに留まりません。日本の伝統美や現代アートに触れるため、積極的に美術館や博物館を巡り、視野を広げてきました。また、大学や学生会館の活動にも積極的に参加しています。例えば、秋祭りで友人たちと「中国カフェ」を開き、日本の方々に中国のお茶やお菓子を紹介しました。多様な背景を持つ留学生と交流する中で、互いに支え合うことの温かさを知り、

どんな困難も成長の糧になることを実感しています。



秋祭りの中国カフェの様子

来日当初、言葉の壁や不慣れな環境で迷子になった時、見ず知らずの私に親切に道を教えてくださった日本の方々の優しさが、今でも忘れられません。その時の感謝の気持ちを誰かに繋げたいと思い、現在は東京都観光ボランティアとして活動しています。日本を訪れる外国人観光客や、地方から東京へいらっしゃった方々のお手伝いをすることで、自身の語学力を磨くだけでなく、国際交流の架け橋としての役割を担えることに大きなやりがいを感じています。

自分の知識や能力がまだまだ未熟であることは自覚しています。だからこそ、さらに日本で学びを深め、これまでに培った知見を活かして、日中両国の懸け橋となる存在を目指します。日本での生活は、私にとって新しい世界への扉を開く毎日の連続です。この貴重な日々を大切に、これからも一歩ずつ前進していきたいと思います。



顔世艾 ガンセガイ
(中国 関東学院大学)



シリーズ 母国の風景

トレンガレック（インドネシア）



アンニサ ラティファー
(東京都市大学)

こんにちは、アンニサと申します。インドネシアのトレンガレック出身です。今回、トレンガレックの有名なことをご紹介します。

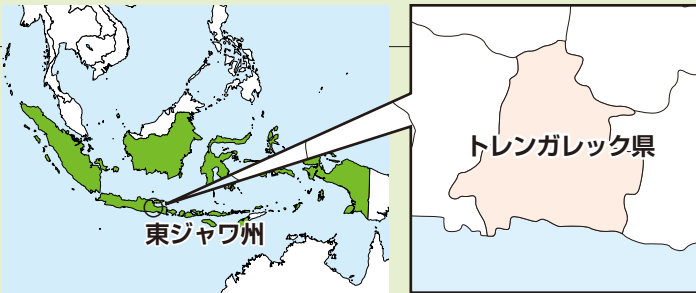
トレンガレックは、インドネシアの東ジャワ州南西部に位置する小さな県です。東ジャワ州には38の県・市がありますが、その中でもトレンガレックは豊かな自然環境ときれいな空気によく知られています。ジャカルタやスラバヤのような大都市と比べると、交通量が少なく人口密度も低いので、静かで落ち着いた雰囲気があります。周囲を山々や森林に囲まれ、さらに南側はインド洋に面していることから、快適な環境とゆったりとした生活を楽しむことができます。

トレンガレックを代表する観光地の一つがロウォ洞窟です。「ロウォ」とはジャワ語で「コウモリ」を意味し、その名の通り何千匹ものコウモリが生息しています。ロウォ洞窟は東南アジアで最も長い洞窟群の一つとして知られています。石灰岩の丘の奥深くまで続くこの洞窟には、何千年もの歳月をかけて形成された見事な鍾乳石や石筍があります。広大な空間と独特な地質構造は、インドネシア各地から訪れる観光客を魅了しています。また、多くのコウモリが生息していることも、ロウォ洞窟を東ジャワ州有数の自然観光地にしている理由の一つです。

トレンガレックは、ラルン・センボニョという伝統的な儀式でも知られています。



ロウォ洞窟



この祭りは毎年プリギ海岸周辺の漁業コミュニティによって開催され、海の恵みへの感謝と安全な漁を祈願するために行われます。儀式では、農作物や伝統的な食べ物などの供え物を準備し、それらを海へ流します。また、伝統音楽や地域の文化的な催し、住民による祝祭行事も行われます。ラルン・センボニョは、トレンガレックの人々と海との深い結びつきを表すとともに、地域の伝統や文化的価値を守り続ける重要な役割を果たしています。

このように、トレンガレックは穏やかな環境、魅力的な自然観光地、そして独自の文化遺産を持つ、東ジャワ州の隠れた魅力あふれる地域です。訪れる人々に本物のインドネシアの魅力を体験させてくれる場所と言えるでしょう。



伝統的なラルン・センボニョ



マレーシアには、「Di mana bumi dipijak, di situ langit dijunjung.」という有名なことわざがあります。文字通りには「大地が踏まれるところに、空が支えられている」という意味です。このことわざは、私たちが住む場所の習慣、価値観、文化を尊重することを教えてくれます。

日本で学ぶマレーシア人の私にとって、このことわざは私にとって非常に意味深いものとなりました。異国へ移住するということは、高等教育を受けるだけでなく、異なる背景を持つ人々と調和して生きる方法を学ぶことでもあります。日本では、時間厳守、責任感、他者への敬意、そして地域社会への配慮の大切さを学び

Di mana bumi dipijak,
di situ langit dijunjung.
(大地が踏まれるところに、空が支えられている)

ました。これらの価値観を理解し、尊重することで、日常生活にうまく適応し、周囲の人々と良好な関係を築くことができます。

同時に、このことわざは、他文化を尊重することは、自分の文化を忘れることではないということを思い出させてくれます。私はマレーシア人であることを誇りに思っており、日本で出会う人々と自分の文化、言語、経験を共有することを楽しんでます。このバランスを通して、私は個人的にも学業的にも成長し続けることができます。私にとって、このことわざは、成長は敬意から始まるということ思い出させてくれます。



ウミ ナスラ
(東京都市大学)